２０２６年１１月８日（日）
聖霊降臨後第２４主日・銀座教会　新島教会　主日礼拝（家庭礼拝）

礼拝招詞

「兄弟たち、神の憐みによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

マタイによる福音書１１章２８節

主の祈り

交読詩編　詩編１３０編５～８節

わたしは主に望みをおき、わたしの魂は望みをおき
**　　御言葉を待ち望みます。**
わたしの魂は主を待ち望みます。
見張りが朝を待つにもまして
**　　見張りが朝を待つにもまして**
イスラエルよ、主を待ち望め。
**　　慈しみは主のもとに、豊かな贖いも主のもとに。**
主は、イスラエルをすべての罪から贖ってくださる。

使徒信条

讃美歌　７９（ほめたたえよつくりぬしを）

出エジプト記 20 章4節
**　あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。**
コロサイの信徒への手紙 3 章1～5節
1 さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。 2 上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。 3 あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。4 あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。5 だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。
牧会祈祷
天の父なる神様。家庭礼拝のしおりを通して御言葉を聞きます。わたしたちの心に聖霊が豊かに臨んでくださり、御言葉を通して私たちの霊を育んでください。礼拝に集うことのできない全ての兄弟姉妹も、教会の確かな一員であり、天に名を連ねる者とされていることを感謝と喜びをもって確信させてください。この祈りを主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

説　教　「偶像からの解放」　副牧師　川村満　出エジプト記第二戒説教

今日与えられました十戒の戒めであります第二戒。「あなたはいかなる像も造ってはならない。」これはこの新共同訳の言葉も良いのですけれども、また口語訳聖書の訳を引用させていただきますと、「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない」となっているのです。自分のために拝む。自分のために木の像を刻んで拝む。木の像を造るのは人間です。自分で作ったものをご神体とする。つまり自分と神様が、そこでは逆さまになってしまっているのです。まず自分ありきなのです。自分に都合が良いから、自分のために私たちは偶像に頼るのです。ですから自分の都合が悪くなったならば、簡単にそれを捨てることができるのです。それが偶像です。ある人が私たちに問うています。わたしたちは神様を自分の都合の良いように信じてはいないだろうか、と。そのことがいつも問われているのだと。教会の中にいても、聖書の信仰にしっかり立たなければ、私たちの信仰は偶像崇拝的になってしまうことが

あるのです。それは、聖書を読み損なうことから始まります。自分の都合の良いように聖書を解釈し、イスラエルの神であり全世界の神である方を、自分の都合の良いように型にはめる。キリスト教の異端と言われる宗教は皆、そのように聖書から外れて自分の都合の良い神様を新たに作ってしまっているのです。自分の型にはめて神様を新たに形作ろうとする罪です。

しかし考えてみますと、この、型にはめる、という罪を、実は私たちはよく犯してしまうのではないだろうか、と私は思います。誰かを自分の思うように型にはめようとして、そこにはまらない時には腹を立ててしまう。時には自分をも、自分の理想通りの方にはめようとしてもがいているのです。人からこう見られたら恥ずかしいとか。こうでなければならないという固定観念が私たちの内にあるからです。そういう時にはやはり、社会の目が。また私たち自身のプライドや欲望がある種の偶像的なものとしてわたしたちの心を支配し、他人をも支配しようとする力となって働いているのではないでしょうか。これは、人の倫理に反することに対して怒ってはならないということではありません。愛のない言葉を吐く人や、冷たい人に対して、それも個性だなどというのではありません。しかし、私たちがもっている偏見や支配欲で、家族や隣人を型に無理にはめようとして、おかしなことになっていることもあるのではないでしょうか。そういうことは教会でも起こることがあります。すると教会にも自由がなくなってしまう。牧師が、信徒を自分の型にはめようとする。信徒はこれだけのことは守ってください。そういう規律を作って、それに従えないならば、もう来ないでくださいという。あなたは私たちの教会にふさわしくないと言って追い出す。そういう話を聞いたことがあります。社会にはルールやマナーが、人間が共に、健全に生きていくためにあります。同じように、律法は、神の御前に人間が本当の自由に生きるために。しかも神の御前で共に生きるためにあります。しかしそれがともすると、律法主義に陥ってしまう。神の恵みに立ってこの十の戒めを見つめて行かないとすぐに律法主義になってしまうのだと思います。律法主義に陥っていたファリサイ派と律法学者たちを主イエスは厳しくとがめました。彼らは律法を非常に厳しく守っていましたが、守れない他人を裁いていた。そこに隣人への愛がなく、守っている自分だけが正しい、という態度でした。それは本質的に、先ほどの偶像宗教的な態度なのです。自分のために律法を守って救われる。神様、これだけわたしはあなたの言いつけを守っているのだから、私こそ救われて当然ですよね、という傲慢な心は、いわば結局自分が神様のようになっているのです。それは、この律法の中心的な心であります、神を愛し、隣人を愛せよ、という心からほど遠かったのです。私たちがこの十の戒めを通して、人を型にはめようとするとき。（そういう誘惑はいつも誰にでもあると思います。）そのとき私たちは、神様を愛することを忘れているのかもしれません。
ある人が申しております。先ず何よりも、この十の戒めを通して、神を愛することを学ぶ。そこから私たちの隣人との関係も正されていくのだ、と。私たちの人間関係の破れ。私たち自身の人生の諸問題。それらは全て、神との関係の破れが根底にある。そう言っても過言ではないのだと思うのです。神が、私たちを自由にするために与えてくださった十の戒め。その第一戒と第二戒。わたしだけを神とせよ。偶像を自分のために造るな。これらの戒めを、断固たる命令として私たちの前に示されたのは、わたしたちは神様に従うことによってこそ、本当に自由になるからであります。神様と私。この人格関係の中で、妬むほどに私たちを愛して、正しく導いてくださる神を信頼して歩むとき、私たちの全ての関係が、正しく整えられていくのではないでしょうか。
私たちはともすると、キリストを信じるという道に入る時にも、先ず自分がキリストを選択するという、自分が中心であるのです。しかし本当は、私たちが神を信じる時、もうその時、すでに神が私たち

の主体となってくださるのです。わたしたちはその客体となるのです。私の中心がもう私ではなくなる。神様が、わたしの人生の主語となり、わたしの生活の主語となっていく。それぐらいに、神様は、私たちの生活や人間関係にも、責任を持ってくださる方なのであります。神様を信じるとこういう不都合なことが起こるかもしれない。だから信じることをまだ踏みとどまる。そういう所がわたしたちにはいつもあります。それは、洗礼を受けてずっと経っていてもあると思います。神様のこの御言葉に従っていると世間では損するしかない。割りを食うしかない。ここは好きにさせてもらうから神様には目をつぶってもらおう。十戒を守ろうとすると、そういう思いになることは少なからずあると思います。しかし、神の道を、神の言葉を信頼して歩むとき、その道に神様は責任を持ってくださる。私たちの心の内と外にある、あらゆる形の偶像を打ち砕いて、導いてくださる。それを信じることが私たちに求められているのではないでしょうか。

私たちは、旧約聖書の民のように異教の神々の像を彫って拝む、などということは致しません。しかし、これまで語ってきましたように、偶像とは、私たちの心の拠りどころとなるもの全て。そして神に代わって信頼を置きたくなるものの全てが、偶像となるのです。わたしたちは、神を信頼するのではなく、所有したがるのであります。あくまで自分の人生を自分の思い通りに生きたいという心があるのです。先月私たちは、サムエル記から御言葉を聞いてまいりましたが、王国成立の経緯が記されておりました。イスラエルが、サムエルを退けて、王を立てて、より強い国にしたいと考えた。それはいわば、ひたすらに神だけを信頼して生きることをやめて、人間だけの国家を造り上げたいという傲慢が根底にあったからです。人間が強くなれば、目に見えない、よくわからない神様を信じて歩むよりも安心だということです。自分たちでプランを立てて、神様抜きに人生を全うしたい。そういう思いが、イスラエルの人々と同じように、私たちの内にも実はあると思うのです。そして、私たちがまことの神を信じて拝んでいないとき、私たちはいつも何らかの偶像を信頼しているのであります。

ある説教者がこのように語ります。人々が神様抜きに生き、神様抜きに計画を立て、実行する場合には、異教的な形態をとることがあると。そう語って、その人は、星占いを取り上げるのです。現代の教養ある人たちでも、星占いが新聞に載っているのを必ず読む。そしてその呪縛にどれほど苦しめられることだろうか、と。実に、星占いは当たることもある。しかし、その場合には、あなたはまさに見知らぬものに導かれることになる。・・・・・・（リュティ）実に、星占いや、あらゆる占いと言われるものには、神と正反対の勢力がその背後に働いているのです。それらは、わたしたちに現世だけの幸福を示します。しかし決して、死や、苦しみの意味を教えることはありません。それらはわたしたちにとって偶像そのものであります。しかし恐ろしいことに、それらはただもの言わぬ、力のないものではなく、ある種の力をもってわたしたちを闇に誘い、ついには食い尽くそうとするのです。わたしたちはそのようなものときっぱり縁を切らなければなりません。そして誓わなければなりません。今後、わたしはイエス・キリストの神様だけを信頼の基礎に置くのだと。神は、わたしたちがそのような、占いや、異教の神々に心を少しでも向けることを決してお許しになられません。なぜなら神は妬む神であられるからであります。妬むほどにわたしたちを愛してくださる方であるからです。ですから、まことなる神の導きに従うならば、もはや星占いは当たらなくなるのです。神の熱愛の中で守られるからです。

そのような妬むほどの熱い愛をもってわたしたちを愛してくださる方がわたしたちの主であるならば、わたしたちは覚悟しなければなりません。神に愛されているにもかかわらず、その要求に答えないならば、懲らしめを受けることもあるのだ、と。「わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代

までも問う」。偶像崇拝をやめないならば、その結果。その苦い実を刈り取ることも私たちの人生にはあります。人間が神様抜きに生きようとするならば、その罪は問われるのです。実に、社会全体において、そういう裁きがあらゆる形で起こっているともいえます。親子の、虐待の連鎖だとか。原子力発電による汚染が自然界を長きにわたって汚染することであるとか。それらの罪は家族という単位で起こることもあれば、国家全体が負うべき重荷となることもありましょう。人間をもののように扱うことも、人間の快適な生活やお金への欲望なども、偶像崇拝の一つ一つの形でありましょう。それらの結果をわたしたちは受け止めなければなりません。わたしたちが、そのような罪のゆえの苦しみの中にあるということ。それが、すでにわたしたちへの罰なのであります。しかし、神は、私たちの罪を問うその厳しさよりも、はるかに大きく、深い祝福を私たちに約束してくださっているのです。「わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。」慈しみとあります。神は、どんなに厳しい裁きを下されるとしても、それはわたしたちを滅ぼすことが目的ではありません。私たちに罰が与えられるとすれば、わたしたちが悔い改めて、神に立ち返り、神にだけ信頼し、従うことを覚えるためであります。祝福するための懲らしめ、というものがある。私たちが神の祝福に与るために、そして罪の中に歩むことが本当に虚しいことに気付くために、懲らしめられる。そうであるならば、罰や懲らしめもまた神の恵みの中で起こる出来事であります。神が私たちの偶像崇拝のゆえに怒り、裁き、懲らしめを与えるならば、それは究極的には私たちを神の恵みに立ち戻らせ悔い改めさせ、祝福に与らせ、神の国へ招き入れるためなのであります。妬むほどに私たちを愛してくださる神は、怒ってもわたしたちを決して滅ぼすことはなさらないのです。そして、そのために神は御自身の御子をこの世のためにお送りくださった。この、主イエス・キリストを通して為された神の御計画を信頼する時、私たちは世の様々な偶像から解き放たれていきます。私たちを不安にさせるもの。罪と、死と、サタンの力。そこからの解放は信仰において起こるのです。いついかなる時にもわたしたちは、神を信頼して歩みたいのです。

お祈りをいたします。

天の父なる御神。十戒の第二戒を通して、あなたがわたしたちを妬むほどに愛してくださっていること。実に、御自身の御子をお送りくださるほどに深い愛で私たちを救い、守り、導いてくださる幸いを心から感謝いたします。あなたの愛を知らずに、この世で形を変えて存在するさまざまな偶像を頼りにしていた私たちです。どうか、主イエス・キリストを信じ、聖霊によって導かれる中で、私たちの心の偶像を打ち砕いてください。いつも主が、わたしたちの心の中心でありますように。十戒を通して、主なるあなたを愛していくものとさせてください。十戒を守ることが、人を裁き、型にはめるものとなりませんようにお守りください。そして、神を愛することを通して、隣人との関係が修復されていきますように。

この言い尽くしません感謝と願いを主イエス・キリストの御名によって祈り願います。アーメン

讃美歌　二編１（こころを高くあげよう）　**献　金　　頌　栄**　５４４番

祝　祷　仰ぎこいねがわくば 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共に とこしえに豊かにあるように。アーメン